μ T-Kernel3. 0 デバイスドライバインタフェース 仕様書

Version. 01. 00. 00

2024. 5. 11

目次

1.		概要	4
	۱.	1 目的	4
	1.	2 実装の基本方針	4
	1.	3 関連ドキュメント	4
	1.	4 ソースコード構成	4
	1.	5 プロジェクト・ファイル	5
2.		I2C ドライバ	6
:	2.	1 対象デバイス	6
	2.	2 デバイス名	6
:	2.	3 固有機能	6
:	2.	4 属性データ	6
:	2.	5 固有データ	7
:	2.	6 事象通知	
:	2.	7 エラーコード	
:	2.	8 ヘッダファイルとサービス関数	7
:	2.	9 I2C ドライバが使用する資源	
		2.9.1 使用する資源の概要	
		2.9.2 タスク (iic_tsk)	
		2.9.3 イベントフラグ	
		2.9.4 割込みハンドラ (riic*_eei*_hdr、riic*_rxi*_hdr、riic*_txi*_hdr、riic*_tei*_hdr)	
		2.9.5 グループ割込み (GroupBL1Handler) 1	
:	2.	10 I2C ドライバのコンフィグレーション 1	
		2. 10. 1 I2C ドライバのコンフィグレーション・ファイル 1	
		2. 10. 2 タスクの優先度と割込みハンドラの割込み優先度	
		2. 10. 3 RIIC チャネル関連	
		2.10.4 端子関連	
		11 スタックサイズ 1	
		2.11.1 スタック見積もりツール1	
		2. 11. 2 iic_tsk のスタックサイズ	
		2.11.3 割込みハンドラのスタックサイズ1	
		2.11.4 グループ割込み 1	
		2.11.5 処理関数のスタックサイズ1	
		12 サンプルプログラム 1	
		2. 12. 1 サンプルプログラムの概要1	
		2. 12. 1 光センサとジェスチャーセンサのサンプルプログラム1	
		2. 12. 2 EEPROM のサンプルプログラム	8

3.		簡易 I2C ドライバ	21
	3.	1 対象デバイス	21
	3.	2 デバイス名	21
	3.	3 固有機能	22
	3.	4 属性データ	22
	3.	5 固有データ	22
	3.	6 事象通知	22
	3.	7 エラーコード	22
	3.	8 ヘッダファイルとサービス関数	23
	3.	9 簡易 I2C ドライバが使用する資源	23
		3.9.1 使用する資源の概要	23
		3.9.2 タスク (siic_tsk)	23
		3.9.3 イベントフラグ	23
		3.9.4 割込みハンドラ (sci*_rxi*_hdr、sci*_txi*_hdr、sci*_tei*_hdr)	24
		3.9.5 グループ割込み (GroupBLOHandler、GroupBL1Handler、GroupALOHandler)	27
	3.	10 簡易 I2C ドライバのコンフィグレーション	27
		3. 10. 1 簡易 I2C ドライバのコンフィグレーション・ファイル	27
		3. 10. 2 タスクの優先度と割込みハンドラの割込み優先度	28
		3. 10. 3 SCI チャネル関連	28
	3.	11 スタックサイズ	29
		3.11.1 スタック見積もりツール	29
		3.11.2 siic_tsk のスタックサイズ	30
		3.11.3 割込みハンドラのスタックサイズ	30
		3.11.4 グループ割込み	30
		3.11.5 処理関数のスタックサイズ	31
	3.	12 サンプルプログラム	32
4.		問い合わせ先	32

1. 概要

1.1 目的

本仕様書はルネサスエレクトロニクス社のRX用に改変した μ T-Kernel 3.0 (V3.00.00) のソースコードに搭載する各種デバイスドライバのインタフェース仕様を記載したものです。

1.2 実装の基本方針

各種デバイスドライバの実装の基本方針を以下に示します。

- μT-Kernel3.0仕様のデバイス管理機能に準拠した構造とする。
- 処理用タスクと割込みハンドラを利用した汎用デバイスドライバとして実装する。
- デバイスドライバのインタフェースライブラリは使用しないで実装する。理由はデバイスドライバ が使用する資源を極力削減するためである。基本的には各デバイス毎にイベントフラグを1つだけ 使用する構造とする。

1.3 関連ドキュメント

以下に本構築仕様書の関連するドキュメントを示します。

分類	名称	発行
0S仕様	μT-Kernel3.0仕様書	TRONフォーラム
	(Ver. 3. 00. 00)	TEF020-S004-3. 00. 00
T-Monitor	T-Monitor仕様書	TRONフォーラム
		TEF-020-S002-01. 00. 01
共通実装仕様	uTK3.0共通実装仕様書	

1.4 ソースコード構成

本実装のソースコードのディレクトリ構成を以下に示します。

— device	デバイスドライバ・ミドルウェア
common	デバイスドライバ共通ライブラリ
- include	デバイスドライバ用のインクルードファイル
\ \ *****	各種デバイスドライバ用ディレクトリ
└ sysdepend	実装依存定義
└ include	アプリケーション用のインクルードファイル

機種依存定義 sysdepend ディレクトリは以下のように構成されます。

─ sysdepend 実装依存定義├ 〈ターゲット1〉 ターゲット1 依存部

```
├ :├ <ターゲットn〉</li>└ <core〉</li>├ <コア1〉</li>├ :└ <コアn〉</li>」 コアn 依存部
```

各デバイスドライバのソースコードを他のターゲットに移植する場合は、機種依存定義 sysdepend ディレクトリにある core デレクトリ内のソースコードをご利用ください。

1.5 プロジェクト・ファイル

本実装を利用するためのプロジェクト・ファイルは「mtkernel_3/ide/cs」のフォルダにあります。 アイコンの名称が ****_DRV. mtpj となっているものがデバイスドライバを利用可能な μ T-Kernel3.0 のプロジェクト・ファイルです。ダブルクリックすればCS+が起動されます。

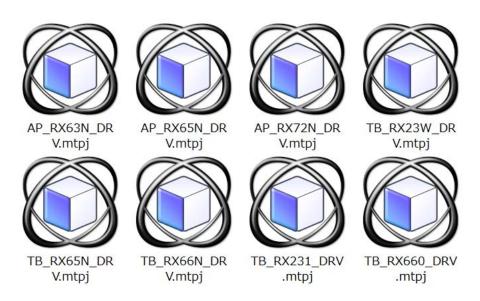


図1.1 デバイスドライバのプロジェクト・ファイル

2. I2C ドライバ

2.1 対象デバイス

スレーブアドレスがフビットのI2Cデバイスが対象となります。

2.2 デバイス名

デバイス名は、"iica"、"iicb"、"iicc"、"iicd"を使用します。内蔵周辺機能のI2Cバスインタフェース (RIIC) のチャネル番号とデバイス名の関係は一致しています。ターゲット毎とコア毎に利用可能なデバイス名は以下の通りです。

iicb iicc iicd iica (RIICO) (RIIC1) (RIIC2) (RIIC3) AP-RX63N-0A 0 AP-RX65N-0A 0 AP-RX72N-OA 0 TB-RX231 0 TB-RX23W 0 TB-RX65N 0 0 0 TB-RX660 0 0 TB-RX66N 0 0 0

表2.1 ターゲット毎に利用可能なデバイス名

表2.2 コア毎に利用可能なデバイス名

	iica	iicb	iicc	iicd
	(RIICO)	(RIIC1)	(RIIC2)	(RIIC3)
R5F563N (RX63N)	0	0	0	0
R5F5231 (RX231)	0			
R5F523W (RX23W)	0			
R5F565N (RX65N)	0	0	0	
R5F5660 (RX660)	0		0	
R5F566N (RX66N)	0	0	0	
R5F572N (RX72N)	0	0	0	

2.3 固有機能

スレーブアドレスがフビットのI2Cデバイスとの送受信を行います。

2.4 属性データ

なし

2.5 固有データ

start: I2Cデバイスのスレーブアドレスを指定します。

下位フビットのみが有効であり、他の上位ビットは無視されます。

buf: 送受信するデータの格納先アドレスを指定します。

送信時に size=0 であれば無視されます。

size: 送受信データのサイズを指定します。

送信(書き込み)時は 0 指定が可能です(Acknowledge Polling等に利用する)。

受信(読み込み) 時の 0 指定は E_PAR となります。

負の値は送受信(読み込み、書き込み)共に E_PAR となります。

2.6 事象通知

なし

2.7 エラーコード

 μ T-Kernel 仕様書のデバイス管理機能の項を参照。 I2C ドライバ固有の特殊なエラーコードは存在しません。

2.8 ヘッダファイルとサービス関数

ヘッダファイルは dev_iic.h です。

I2Cドライバを登録するためのサービス関数の仕様は以下の通りです。

ER ercd = iicDrvEntry(void);

2.9 I2C ドライバが使用する資源

2.9.1 使用する資源の概要

I2Cドライバは処理を実施するに当たり、デバイス名毎に1つのタスク、1つのイベントフラグ、4つの割込みを利用します。サービス関数のAPIを呼び出すと生成または定義されます。

使用する資源	名称	優先度		
タスク	iic_tsk	タスクの優先度は IIC_CFG_TASK_PRIORITY		
割込みハンドラ	riic*_eei*_hdr	割込みハンドラの割込み優先度は IIC_CFG_INT_PRIORITY		
	riic*_rxi*_hdr	割込みハンドラの割込み優先度は IIC_CFG_INT_PRIORITY		
	riic*_txi*_hdr	割込みハンドラの割込み優先度は IIC_CFG_INT_PRIORITY		
	riic*_tei*_hdr	割込みハンドラの割込み優先度は IIC_CFG_INT_PRIORITY		

注: IIC_CFG_TASK_PRIORITY と IIC_CFG_INT_PRIORITY は次項を参照

* の部分にはRIICのチャネル番号が入る(0~3)。

2.9.2 タスク (iic_tsk)

I2Cの通信処理やユーザアプリケーションからのシステムコールの受付けを行います。

項目	値
拡張情報	0
タスク属性	TA_HLNG TA_DSNAME TA_USERBUF
タスク起動アドレス	iic_tsk
タスク起動時優先度	IIC_CFG_TASK_PRIORITY
スタックサイズ	300
DSオブジェクト名称	"iic*_t"(*はデバイス名の最後の文字)

備考:

TA_DSNAME、TA_USERBUFのタスク属性とDSオブジェクト名称はカーネルのコンフィグレーションによって未サポートとなる場合があります。

2.9.3 イベントフラグ

I2Cの通信処理やユーザアプリケーションからのシステムコールの受付け状況の管理を行います。

項目	値			
拡張情報	未使用			
タスク属性	TA_PRI TA_WMUL TA_DSNAME			
DSオブジェクト名称	"iic*_f" (*はデバイス名の最後の文字)			

備考:

TA_DSNAMEのイベントフラグ属性とDSオブジェクト名称はカーネルのコンフィグレーションによって 未サポートとなる場合があります。

2.9.4 割込みハンドラ (riic*_eei*_hdr、riic*_rxi*_hdr、riic*_txi*_hdr、riic*_tei*_hdr) RIICの割込みハンドラです。割込みの発生によりイベントフラグへのイベントの設定を行います。

項目	- 7	値			
(通信エラー/通信イベント発生)	コア	iica	iicb	iicc	iicd
割込み番号、	R5F563N (RX63N)	182	186	190	194
グループ割込み番号	R5F5231 (RX231)	246	-	_	_
	R5F523W (RX23W)	246	_	_	_
	R5F565N (RX65N)	111、14	111、29	111、16	_
	R5F5660 (RX660)	111、14	-	111、16	_
	R5F566N (RX66N)	111、14	111、29	111、16	_
	R5F572N (RX72N)	111、14	111、29	111、16	_
割込み優先度	IIC_CFG_INT_PRIORITY				
割込みハンドラ起動アドレス	riic*_eei*_hdr (*はRIICのチャネル番号)				

項目	7.7	1.アー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				
(受信データフル)	コア	iica	iicb	iicc	iicd	
割込み番号	R5F563N (RX63N)	183	187	191	195	
	R5F5231 (RX231)	247	_	_	_	
	R5F523W (RX23W)	247	_	_	_	
	R5F565N (RX65N)	52	50	54	_	
	R5F5660 (RX660)	52	_	54	_	
	R5F566N (RX66N)	52	50	54	_	
	R5F572N (RX72N)	52	50	54	_	
割込み優先度	IIC_CFG_INT_PRIORI	TY				
割込みハンドラ起動アドレス	riic*_rxi*_hdr(*はRIICのチャネル番号)					

項目		値				
(送信データエンプティ)	コア	iica	iicb	iicc	iicd	
割込み番号	R5F563N (RX63N)	184	188	192	196	
	R5F5231 (RX231)	248	_	_	_	
	R5F523W (RX23W)	248	_	_	_	
	R5F565N (RX65N)	53	51	55	_	
	R5F5660 (RX660)	53	_	55	_	
	R5F566N (RX66N)	53	51	55	_	
	R5F572N (RX72N)	53	51	55	_	
割込み優先度	IIC_CFG_INT_PRIORI	TY				
割込みハンドラ起動アドレス	riic*_txi*_hdr(*はRIICのチャネル番号)					

項目	7.7	値			
(送信終了)	コア	iica	iicb	iicc	iicd
割込み番号、	R5F563N (RX63N)	185	189	193	197
グループ割込み番号	R5F5231 (RX231)	249	_	-	-
	R5F523W (RX23W)	249	_	-	-
	R5F565N (RX65N)	111、13	111、28	111、15	-
	R5F5660 (RX660)	111、13	_	111、15	-
	R5F566N (RX66N)	111、13	111、28	111、15	_
	R5F572N (RX72N)	111、13	111、28	111、15	-
割込み優先度	IIC_CFG_INT_PRIORITY				
割込みハンドラ起動アドレス	riic*_tei*_hdr (*はRIICのチャネル番号)				

2.9.5 グループ割込み (GroupBL1Handler)

RIICの送信完了(TEI*)、通信エラー(EE1*)の割込みがグループ割込みの場合(RX65NやRX72N等の場合)、割込み番号(ベクタ番号)111の割込みハンドラを定義することになります。ただし、システムで割込み番号111のグループ割込みに分類された割込みを利用する場合、RIICの割込みと共存する必要があります。

この割込みに対してはデバイスドライバ共通のグループ割込みハンドラ(GroupBL1Handler)を利用 しています。ソースファイルはgroupbl1.cです。グループ割込みハンドラでは関数ポインタ経由で割込 み要求に対応した割込みハンドラを呼び出します。

GroupBL1Handlerグループ割込みハンドラ

GroupBL1Handlerグループ割込みハンドラの中でGRPBL1レジスタの各ステータスフラグをチェックし、 各割込みハンドラを呼び出します。

2.10 I2C ドライバのコンフィグレーション

2.10.1 I2C ドライバのコンフィグレーション・ファイル

I2Cドライバのコンフィグレーション・ファイルは、mtkernel_3\u00e4device\u00e4iic\u00e4sysdepend\u00e4ターゲット \u00e4iic_config.h です。

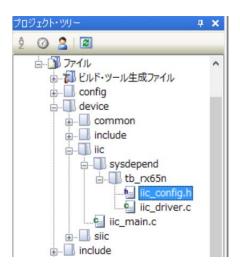


図2.1 【20ドライバのコンフィグレーション・ファイル

2.10.2 タスクの優先度と割込みハンドラの割込み優先度

IIC_CFG_TASK_PRIORITY

I2Cの通信処理を実行するタスク (iic_tsk) のタスク優先度です。

システムの都合に応じて、1 ~ CFN_MAX_TSKPRI (タスク優先度の最大値) の範囲で変更できます。 最低でもI2Cを利用するタスクの優先度よりも高く設定することを推奨します。デフォルトは 4 に設定 されています。

● IIC_CFG_INT_PRIORITY

内蔵周辺機能のI2Cバスインタフェース(RIIC)の割込み優先度です。

システムの都合に応じて、1 ~ MAX_INT_PRI (最高外部割込み優先度)の範囲で変更できます。 TIM_INT_PRI (システムタイマの割込み優先度) よりも低く設定することを推奨します。デフォルトでは 9 に設定されています。

なお、グループ割込みを利用する場合、割込み番号が同一である他の割込みハンドラと同一の割込み 優先度を指定する必要があります。もし、異なる割込み優先度を指定している場合、iicDrvEntryのサ ービス関数の戻り値がエラーとなり、I2Cデバイスドライバの登録が失敗することがあります。

2.10.3 RIIC チャネル関連

● USE_IIC*

内蔵RIICの当該チャネルの使用/未使用を設定します(定義=使用、未定義=未使用)。 使用する場合は目的のマクロ名を定義してください。定義すると2.9節で紹介した資源が生成、また は定義されます。未使用の場合は目的のマクロ名をコメントアウトしてください。

- IIC*_HPSCL (USE_IIC*が未定義の場合は設定不要です)
 SCLクロックのHigh期間を指定します。設定値の単位は µ secです。
- IIC*_LPSCL (USE_IIC*が未定義の場合は設定不要です)SCLクロックのLow期間を指定します。設定値の単位は µ secです。

上記 2 つの設定値は接続する I2Cデバイスのデータシート等に記載されています。次頁にBH1750FVIの 光センサとPAJ7620U2のジェスチャーセンサの例を示します。なお、設定値の最後の F は接尾子です。 必ず設定値の最後には接尾子の F を記載しください。

BH1750FVIの光センサ

Parameter	Symbol	Limits			Units	Conditions
raralleter	Syllibol	Min.	Тур.	Max.	Units	Conditions
I2C 'L' Period of the SCL Clock	tLOW	1. 3	_	_	μs	
I2C 'H' Period of the SCL Clock	tHIGH	0.6	_	_	μs	

PAJ7620U2のジェスチャーセンサ

Parameter	Symbol	STANDARD MODE		FAST MODE		Unit
		Min.	Max.	Min.	Max.	Unit
Low period of SCL clock.	tLOW	4. 7		1.3		μs
High period of SCL clock.	tHIGH	4		0.6		με

```
#define USE_IICO /* Use RIICO */
#define IICO_HPSCL 0.6F /* RIICO I2C High Period of the SCL Clock(us) */
#define IICO_LPSCL 1.3F /* RIICO I2C Low Period of the SCL Clock(us) */
```

2.10.4 端子関連

- USE SCL P**
- USE_SDA_P**

一部のターゲット、コア、RIICチャネルにだけ存在する設定です。SCL端子やSDA端子が複数利用できる場合の選択です。使用する端子のマクロ名を定義し、使用しない端子のマクロ名はコメントアウトしてください。なお、全てをコメントアウトしたり、複数のマクロ名を定義すると正しい動作は得られないので注意してください。

```
#define USE_SCL_P16 /* Use RIICO SCL is P16 */
//#define USE_SCL_P12 /* Use RIICO SCL is P12 */
#define USE_SDA_P17 /* Use RIICO SDA is P17 */
//#define USE_SDA_P13 /* Use RIICO SDA is P13 */
```

2.11 スタックサイズ

2.11.1 スタック見積もりツール

本実装においてもスタック見積もりツールを使用することが可能です。スタック見積もりツールの起動方法やリアルタイムOSオプションの設定等はターゲット毎の構築仕様書の第5章を参照ください。

以降はスタック見積もりツールを使用することを前提に各スタックサイズを紹介します。以下にスタック見積もりツールの表示例を示します。

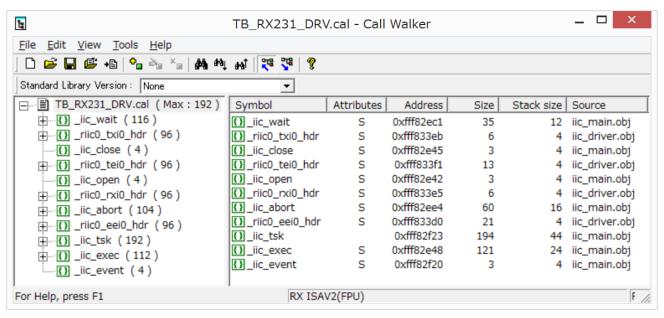


図2.2 I2Cデバイスドライバのスタック見積もり結果

2.11.2 iic_tsk のスタックサイズ

iic_tskタスクが独自に使用するスタックサイズは192バイトです。コンパイラのバージョン等が変化しても、それほど大きな違いはないはずです。このサイズにタスクコンテキストのサイズを加えても、現状のサンプルで確保されている300バイトは超えないと考えて構いません。

ただし、カーネル管理外割込みを複数レベル使用すると300バイトを超える可能性があります。もし、カーネル管理外割込みを複数レベル使用する場合はターゲット毎の構築仕様書の第5章の内容に従ってスタックサイズを算出し、mtkernel_3¥device¥iic¥sysdepend¥ターゲット¥iic_driver.cで生成・確保されているスタックサイズを変更してください。

2.11.3 割込みハンドラのスタックサイズ

図2.2の例では、riic0_eei0_hdr、riic0_rxi0_hdr、riic0_txi0_hdr、riic0_tei0_hdrの4つが割込みハンドラです(RIICチャネル0の4つの割込み)。図2.2の例では全て96バイトですが、異なる場合は、最大のサイズがI2Cデバイスドライバのコンフィグレーションで指定した IIC_CFG_INT_PRIORITY 割込み優先度で実行される割込みハンドラのスタックサイズとなります。この数値を使って例外スタックのサイズを算出してください。詳しくはターゲット毎の構築仕様書の第5章を参照してください。

2.11.4 グループ割込み

RX65NやRX72N等のように通信エラー/通信イベント発生の割込みハンドラ (riic*_eei*_hdr) と送信終了の割込みハンドラ (riic*_tei*_hdr) がGroupBL1Handlerグループ割込みハンドラ経由で実行される場合、スタック見積もリツールの表示結果は図2.3のようになります。

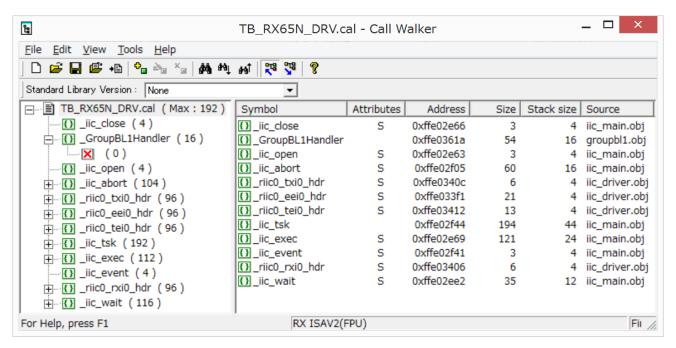


図2.3 GroupBL1Handlerグループ割込みハンドラを使用する場合のスタック見積もり結果

上記の場合、riic*_eei*_hdr割込みハンドラとriic*_tei*_hdr割込みハンドラはGroupBL1Handlerグループ割込みハンドラから関数ポインタ経由で実行されます。結果、割込みハンドラのみをドラッグ&ドロップで未解決シンボルを修正すると図2.4のようになります。

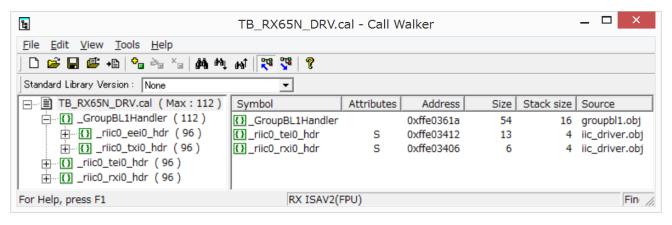


図2.4 ドラッグ&ドロップで未解決シンボルを修正した結果

結果、GroupBL1Handlerグループ割込みハンドラを利用する場合、riic*_eei*_hdr割込みハンドラとriic*_tei*_hdr割込みハンドラはGroupBL1Handlerグループ割込みハンドラが使用するサイズを加算したサイズで算出することになります。

図2.3の例であれば、IIC_CFG_INT_PRIORITY 割込み優先度で実行される割込みハンドラのスタックサイズは112バイトで計算することなります。

2.11.5 処理関数のスタックサイズ

 μ T-Kernel/SMから呼び出されるデバイスドライバの処理関数 (iic_open、iic_close、iic_exec、iic_wait、iic_abort、iic_event) の中でシステムコールの加算条件を超えるものはありません。このため現状のスタック解析結果では処理関数が使用するサイズは表示されないようにしてあります。詳しくはターゲット毎の構築仕様書の第5章を参照してください。

2.12 サンプルプログラム

2.12.1 サンプルプログラムの概要

本実装では全てのターゲットで動作可能なBH1750FVIの光センサとPAJ7620U2のジェスチャーセンサを対象としたサンプルプログラムと、AP-RX63N-OA、AP-RX65N-OA、AP-RX72N-OAの3つのターゲットでのみ動作する24LC01BTや24LC16BTのEEPROMを対象としたサンプルグラムを準備しています。

【光センサとジェスチャーセンサ】

mtkernel_3\pmusermain_device_driver\pmu usermain_i2c.c

[EEPROM]

mtkernel_3\text{\text{kernel\text{\text{\text{usermain}}}} device_driver\text{\text{usermain}} usermain_i2c_eeprom.c

両方に対応しているターゲットの場合、プロジェクト立ち上げ時は光センサとジェスチャーセンサの ソースプログラムがアクティブなっており、EEPROMのサンプルプログラムはビルドから除外されていま す。必要に応じてビルドの対象を変更してお使いください。

なお、デバイス名は使用するRIICのチャネルに合わせて変更する必要があります(I2Cドライバや第3章で紹介する簡易I2Cドライバのデバイス名が利用可能です)。2.10節に記載の内容に従ってI2Cドライバのコンフィグレーションを修正ください。

また、サンプルプログラムでは「CLANGSPEC」のマクロ定義を利用しています。「CLANGSPEC」のマクロ定義に関しては各ターゲットの構築仕様書を参照してください。

2.12.1 光センサとジェスチャーセンサのサンプルプログラム

usermain関数

```
#include <string.h>
#include <tk/tkernel.h>
#include <tm/tmonitor.h>
#include "dev_iic.h"

#include "dev_siic.h"

EXPORT INT usermain( void )
{
    ID objid;
    T_CTSK t_ctsk;

        iicDrvEntry();
        siicDrvEntry();
        // Entry IIC Driver
        siicDrvEntry();
        // Entry SIIC Driver
```

```
t_ctsk.tskatr = TA_HLNG | TA_DSNAME;
                                                                         // Set Task Attribute
          t ctsk. stksz = 1024;
                                                                         // Set Task Stack Size
          t_{ctsk.itskpri} = 10;
                                                                         // Set Task Priority
                                                                         // Set Task Start Address
// Set Debugger Support Name
          t_ctsk. task = gesture_tsk;
          strcpy( t_ctsk. dsname, "gesture" );
if( (objid = tk_cre_tsk( &t_ctsk )) <= E_OK )</pre>
                                                                         // Create Gesture Task
                     goto Err;
          if( tk_sta_tsk( objid, 0 ) < E_0K )</pre>
                                                                         // Start Gesture Task
                     goto Err:
                                                                         // Set Task Start Address
          t_ctsk. task = light_tsk;
          strcpy( t_ctsk.dsname, "light");
                                                                         // Set Debugger Support Name
          if( (objid = tk_cre_tsk( &t_ctsk )) <= E_OK )</pre>
                                                                         // Create Light Task
                     goto Err;
                                                                        // Start Light Task
          if( tk_sta_tsk( objid, 0 ) < E_OK )</pre>
                     goto Err;
          tk_slp_tsk( TMO_FEVR );
                                                                         // Sleep
Err:
          while(1);
}
```

usermain関数では、サービス関数を使ってI2Cドライバと簡易I2Cドライバを登録し、ジェスチャーセンサを操作するジャスチャータスク(gesture_tsk)と光センサを操作するライトタスク(light_tsk)を生成・起動し、自身はtk_slp_tskで待ち状態となります。

なお、I2Cドライバと簡易I2Cドライバで共通の端子を使用することはできません。不要であれば、簡易I2Cドライバのサービス関数(siicDrvEntry関数)の呼び出しは削除やコメントアウトしても構いません。

ジャスチャータスク (gesture_tsk)

```
EXPORT void gesture_tsk(INT stacd, void *exinf)
 ID dd:
UB buf;
UH data;
 SZ asize:
 INT i:
LOCAL const UB IniReg[][2] = {
                                                                                                                                                                                                                                                                                                // Initialize Data
                                      {0xEF, 0x00}, {0x37, 0x07}, {0x38, 0x17}, {0x39, 0x06}, {0x42, 0x01},
                                     [0x46, 0x20], [0x47, 0x07], [0x48, 0x30], [0x49, 0x00], [0x4A, 0x1E], [0x46, 0x20], [0x51, 0x10], [0x5E, 0x10], [0x60, 0x27], [0x80, 0x42], [0x81, 0x44], [0x82, 0x04], [0x88, 0x01], [0x90, 0x06], [0x95, 0x04], [0x96, 0x00], [0x97, 0x05], [0x9A, 0x14], [0x90, 0x3F], [0xA5, 0x19], [0x96, 0x06], [0x90, 0x08], [0x90, 0x10], [0
                                     [0xCC, 0x19], [0xCD, 0x0B], [0xCE, 0x13], [0xCF, 0x64], [0xD0, 0x21], [0xEF, 0x01], [0x02, 0x0F], [0x03, 0x10], [0x04, 0x02], [0x25, 0x01], [0x27, 0x39], [0x28, 0x7F], [0x29, 0x08], [0x3E, 0xFF], [0x5E, 0x3D], [0x65, 0x96], [0x67, 0x97], [0x69, 0xCD], [0x67, 0x01], [0x60, 0x2C],
                                      \{0x6E, 0x01\}, \{0x72, 0x01\}, \{0x73, 0x35\}, \{0x77, 0x01\}, \{0xEF, 0x00\}, \}
LOCAL const VB *msg[] = { "down", "up", "right", "left", "near", "far", "R turn", "L turn", "ByeBye" };
if( (dd = tk_opn_dev("iica", TD_UPDATE)) <= E_OK) // Open IIC or SIIC Driver
                                                                        goto Err2;
                                     tk_dly_tsk(1);
                                     tk_swri_dev( dd, 0x73, "\u00e4x00", 1, &asize );
                                                                                                                                                                                                                                                                                              // Gesture Sensor Wakeup
                                   for(i=0; i<20; i++) {
    tk_swri_dev(dd, 0x73, "\u00e4x00", 1, &asize);
    tk_srea_dev(dd, 0x73, &buf, 1, &asize);
                                                                                                                                                                                                                                                                                               // Gesture Sensor Wakeup
                                                                                                                                                                                                                                                                                               // Status Read
                                                                        if (buf = 0x20)
                                                                                                                                                                                                                                                                                               // Wakeup End ?
                                                                                                           break:
                                     if(i = 20)
                                                                        goto Err1;
                                     for( i=0; i < sizeof(IniReg)/sizeof(IniReg[0]); i++) // Gesture Sensor Initialize</pre>
```

```
tk_swri_dev( dd, 0x73, IniReg[i], 2, &asize );
                                                                              // Initialize Command
          for( i=0 ; i<2 ; i++ ) {
                   tk_swri_dev( dd, 0x73, "\u00e4x43", 1, &asize );
                                                                              // Indicate Register
                   tk_srea_dev(dd, 0x73, &buf, 1, &asize);
                                                                               // Dummy Read
          while(1) {
                   tk_dly_tsk( 250 );
                                                                              // Wait 250ms
                                                                              // Indicate Upper Register
// Data Clear
// Read Sensor Value
                   tk_swri_dev( dd, 0x73, "\u00e4x43", 1, &asize );
                   data = 0;
                   tk_srea_dev( dd, 0x73, &data, 2, &asize );
                   if(! ( data &= 0x1FF ) )
                                                                              // Find Gesture ?
                             continue
#ifdef __BIG
                                                                              // Byte Swap
                   data = data / 256 + ( data % 256 << 8 );
#endif
                   for ( i=0 ; data >>= 1 ; i++ ) ;
                                                                              // Analize Gesture
                   tm_printf("%s\n", msg[i]);
                                                                              // Output Gesture Message
Err1:
          tk_cls_dev(dd, 0);
                                                                              // Close IIC Driver
Err2:
          tk_ext_tsk();
                                                                              // Exit
```

起動されたら、I20ドライバまたは簡易I20ドライバをオープンし、初期化データを使ってジェスチャーセンサを初期化します。初期化後は、250msの間隔でジェスチャー検出用のレジスタを参照し、検出したジェスチャーに対応した文字列をターミナルに表示します。

ライトタスク (light tsk)

```
EXPORT void light_tsk(INT stacd, void *exinf)
ID dd;
UB buf[2];
SZ asize;
INT data;
         if( ( dd = tk_opn_dev("iica", TD_UPDATE ) ) <= E_OK ) // Open IIC or SIIC Driver</pre>
                 goto Err2;
         if(tk_swri_dev(dd, 0x23, "\forall x10", 1, &asize) < E_OK) // Set Continuously H-Resolution Mode
                 goto Err1;
                                                              // Wait 180ms
         tk_dly_tsk( 180 );
         while(1) [
                 if(tk_srea_dev(dd, 0x23, buf, 2, &asize) < E_OK)
                                                              // Read Measurement Result
                          continue:
                 // Make Measurement Result
                                                              // Output Console
                 tk_dly_tsk( 1000 );
                                                              // Wait 1000ms
        }
Err1:
                                                              // Close IIC or SIIC Driver
        tk_cls_dev(dd, 0);
Err2:
                                                              // Exit
         tk_ext_tsk();
```

起動されたら、I2Cドライバまたは簡易I2Cドライバをオープンし、センサモードを設定後、1000msの間隔でセンサ値を参照し、その結果をターミナルに表示します。

実行結果

```
microT-Kernel Version 3.00
13
15
18
3379
5566
6179
3686
12
13
2701
2614
4392
3128
14
5
left
down
up
3
right
left
L turn
R turn
ByeBye
far
3
near
```

2. 12. 2 EEPROM のサンプルプログラム

usermain関数

```
#include <string.h>
#include <tk/tkernel.h>
#include <tm/tmonitor.h>
#include "dev_iic.h"
#include "dev_siic.h"
EXPORT INT usermain (void)
ID objid;
T_CTSK t_ctsk;
            iicDrvEntry();
                                                                                  // Entry I2C Driver
                                                                                  // Entry Simple I2C Driver
            siicDrvEntry();
                                                                                  // Set Task Attribute
// Set Task Stack Size
// Set Task Priority
           t_ctsk. tskatr = TA_HLNG | TA_DSNAME;
t_ctsk. stksz = 1024;
            t_ctsk.itskpri = 10;
                                                                                 // Set Task Start Address
            t_ctsk.task = eeprom_tsk;
           strcpy( t_ctsk. dsname, "eeprom");
if( (objid = tk_cre_tsk( &t_ctsk )) <= E_OK )
                                                                                 // Set Debugger Support Name
                                                                                 // Create Gesture Task
                       goto Err;
            if( tk_sta_tsk( objid, 0 ) < E_OK )</pre>
                                                                                  // Start Gesture Task
                       goto Err;
            tk_slp_tsk( TMO_FEVR );
                                                                                  // Sleep
Err:
            while(1);
```

usermain関数では、サービス関数を使ってI2Cドライバや簡易I2Cドライバを登録し、EEPROMを操作するEEPROMタスク (eeprom_tsk) を生成・起動し、自身はtk_slp_tskで待ち状態となります。

なお、I2Cドライバと簡易I2Cドライバで共通の端子を使用することはできません。不要であれば、簡易I2Cドライバのサービス関数(siicDrvEntry関数)の呼び出しは削除やコメントアウトしても構いません。

EEPROMタスク (eeprom_tsk)

```
#ifdef AP_RX72N
#define BSIZE
                                                       2
#else
#define BSIZE
                                                       1
#endif
UB buf[128*BSIZE];
EXPORT void eeprom_tsk(INT stacd, void *exinf)
ID dd;
SZ asize;
INT i, j;
                            if( ( dd = tk_opn_dev("iica", TD_UPDATE ) ) <= E_OK )</pre>
                                                                                                                                                                                                                           // Open IIC or SIIC Driver
                                                       goto Err:
                           tk_swri_dev( dd, 0x50, "\( \) x00", 1, \( \) asize );  // Set Random Read Addre tk_srea_dev( dd, 0x50, buf, 128*BSIZE, \( \) asize );  // Read Data (\( \) Mac Addres tm_printf(" \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \(
                                                                                                                                                                                                                            // Set Random Read Address
                                                                                                                                                                                                                             // Read Data (Mac Address)
                                                       for( j=0 ; j<16 ; j++ )
                                                                                  tm_printf(" %02X", buf[(i<<4)+j]);</pre>
                                                       tm_printf("\u00e4n");
                            for ( i=16 ; i<128*BSIZE ; i++ )
                                                       if( buf[i] != 0xFF )
                                                                                   break:
                            if(i == 128*BSIZE)
                                                       for ( i=16 ; i<128*BSIZE ; i++ )
                                                                                   buf[i] = i;
                            else
                                                       for( i=16 ; i<128*BSIZE ; i++ )
                                                                                  buf[i] ++;
                            for( i=16 ; i<64*BSIZE ; i++ )
                                                       buf[i-1] = i;
                                                       tk_swri_dev( dd, 0x50, &buf[i-1], 2, &asize ); // Byte Write while( tk_swri_dev( dd, 0x50, "\frac{2}{3}x00", 0, &asize ) != E_0K ) // Acknowledge Polling
                                                                                  __nop();
                            for( i=64*BSIZE ; i<128*BSIZE ; i+=8*BSIZE ) {
                                                       buf[i-1] = i;
                                                       tk_swri_dev(dd, 0x50, &buf[i-1], 1+8*BSIZE, &asize); // Page Write while(tk_swri_dev(dd, 0x50, "\forall x00", 0, &asize)!= E_OK) // Acknowledge Polling
                           tm_printf("\forall n");
tk_swri_dev( dd, 0x50, "\forall x00", 1, \forall asize );
tk_srea_dev( dd, 0x50, buf, 128*BSIZE, \forall asize );
                                                                                                                                                                                                                            // Set Random Read Address
                                                                                                                                                                                                                           // Read Data (Mac Address)
                            for( i=0 ; i<8*BSIZE ; i++ ) {
                                                       for( j=0 ; j<16 ; j++ )
                                                                                  tm_printf(" %02X", buf[(i<<4)+j]);</pre>
                                                       tm_printf("\frac{y}n");
```

起動されたら、I2Cドライバまたは簡易I2Cドライバをオープンし、EEPROMのブロック0のランダムリードアドレスを 0 に設定します。その後、1 ブロックのデータを読み込みます。AP-RX63N-OAとAP-RX65N-OA搭載の24LC01BTは1 ブロックが128バイト、AP-RX72N-OA搭載の24LC16BTは1 ブロックが256バイトです。製品出荷時に最初の6 バイトにMACアドレスが書き込まれているため、それをターミナルに表示後、1 ブロック分のデータをバイト単位でターミナルに16進で表示します。

その後は、最初の16バイトを除くデータを読み込んだ値とは異なる値に更新します。そして、半分をバイト・ライト、残りの半分をページ・ライトでEEPROMに書き込みます。AP-RX63N-0AとAP-RX65N-0A搭載の24LC01BTはページ・ライトの単位が8バイト、AP-RX72N-0A搭載の24LC16BTはページ・ライトの単位が16バイトです。また、書込み完了を確認するアックノレッジ・ポーリングはtk_swri_drvシステムコール(またはtk_wri_devシステムコール)で第3引数のサイズに 0 を指定すれば対応できます。

書込み後は、再度1ブロック分のデータを読み込み、ターミナルに表示します。

実行結果

```
microT-Kernel Version 3.00
 00:0C:7B:47:02:CB
 00 OC 7B 47 O2 CB FF FF FF FF FF FF FF FF FF FF
 11 12 13 14 15 16 17 18 19 1A 1B 1C 1D 1E 1F 20
 21 22 23 24 25 26 27 28 29 2A 2B 2C 2D 2E 2F 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 3A 3B 3C 3D 3E 3F 40
 41 42 43 44 45 46 47 48 49 4A 4B 4C 4D 4E 4F 50
 51 52 53 54 55 56 57 58 59 5A 5B 5C 5D 5E 5F 60
 61 62 63 64 65 66 67 68 69 6A 6B 6C 6D 6E 6F 70
 71 72 73 74 75 76 77 78 79 7A 7B 7C 7D 7E 7F 80
 00 OC 7B 47 O2 CB FF FF FF FF FF FF FF FF FF FF
 12 13 14 15 16 17 18 19 1A 1B 1C 1D 1E 1F 20 21
 22 23 24 25 26 27 28 29 2A 2B 2C 2D 2E 2F 30 31
 32 33 34 35 36 37 38 39 3A 3B 3C 3D 3E
                                           3F 40 41
 42 43 44 45 46 47 48 49 4A 4B 4C 4D 4E 4F 50 51
 52 53 54 55 56 57 58 59 5A 5B 5C 5D 5E 5F 60 61
 62 63 64 65 66 67 68 69 6A 6B 6C 6D 6E 6F 70 71
 72 73 74 75 76 77 78 79 7A 7B 7C 7D 7E 7F 80 81
```

3. 簡易 I2C ドライバ

3.1 対象デバイス

スレーブアドレスがフビットのI2Cデバイスが対象となります。

3.2 デバイス名

デバイス名は、"siica"、"siicb"、...、"siicl"、"siicm" を使用します。内蔵周辺機能のシリアルコミュニケーションインタフェース (SCI) のチャネル番号とデバイス名の関係は一致しています。ターゲット毎とコア毎に利用可能なデバイス名は以下の通りです。

siica siicb siicc siicd siice siicf siicg (SCIO) (SCI1) (SCI2) (SCI3) (SCI4) (SCI5) (SCI6) AP-RX63N-0A 0 AP-RX65N-OA 0 AP-RX72N-OA 0 0 0 0 TB-RX231 0 0 0 0 TB-RX23W 0 0 TB-RX65N 0 0 0 0 0 0 0 TB-RX660 0 0 0 0 0 0 0 TB-RX66N 0 0 0 0 0 0 0

表2.1 ターゲット毎に利用可能なデバイス名

耒2 2) 匀.	ーゲッ	ト毎1	一利田市	「能なデ	バイ	フタ
<i>⊼</i> ⊽ / /	′ ·×·	—	P ## I	ᆫᄼᆘᆔᅛ	1 85/1 7	<i>,</i> , ,	~~

次にと グープラー 母に行がら 能な グ・・・・ 八百								
siich	siici	siicj	siick	siicl	siicm			
(SCI7)	(8018)	(SCI9)	(SCI10)	(SCI11)	(SCI12)			
				0				
	0	0			0			
	0	0	0	0	0			
	0	0		0	0			
		0		0	0			
	siich	siich siici (SCI7) (SCI8)	siich siici siicj (SC17) (SC18) (SC19)	siich siici siicj siick (SC17) (SC18) (SC19) (SC110)	siich (SCI7) siici (SCI8) siicj (SCI9) siick (SCI10) siicl (SCI11) O O O O O O O O O O O O			

表2.2 コア毎に利用可能なデバイス名

	siica	siicb	siicc	siicd	siice	siicf	siicg
	(SCIO)	(SCI1)	(SCI2)	(SCI3)	(SCI4)	(SCI5)	(SCI6)
R5F563N (RX63N)	0	0	0	0	0	0	0

R5F5231 (RX231)	0	0				0	0
R5F523W (RX23W)		0				0	
R5F565N (RX65N)	0	0	0	0	0	0	0
R5F5660 (RX660)	0	0	0	0	0	0	0
R5F566N (RX66N)	0	0	0	0	0	0	0
R5F572N (RX72N)	0	0	0	0	0	0	0

表2.2 コア毎に利用可能なデバイス名

	siich	siici	siicj	siick	siicl	siicm
	(SCI7)	(8018)	(SCI9)	(SCI10)	(SCI11)	(SCI12)
R5F563N (RX63N)	0	0	0	0	0	0
R5F5231 (RX231)		0				0
R5F523W (RX23W)	0					
R5F565N (RX65N)	0	0	0	0	0	0
R5F5660 (RX660)	0	0	0	0	0	0
R5F566N (RX66N)	0	0	0	0	0	0
R5F572N (RX72N)	0	0	0	0	0	0

3.3 固有機能

スレーブアドレスが7ビットのI2Cデバイスとの送受信を行います。

3.4 属性データ

なし

3.5 固有データ

start: I2Cデバイスのスレーブアドレスを指定します。

下位フビットのみが有効であり、他の上位ビットは無視されます。

buf: 送受信するデータの格納先アドレスを指定します。

送信時に size=0 であれば無視されます。

size: 送受信データのサイズを指定します。

送信(書き込み)時は 0 指定が可能です(Acknowledge Polling等に利用する)。

受信(読み込み) 時の 0 指定は E_PAR となります。

負の値は送受信(読み込み、書き込み)共に E_PAR となります。

3.6 事象通知

なし

3.7 エラーコード

μT-Kernel仕様書のデバイス管理機能の項を参照。簡易I2Cドライバ固有の特殊なエラーコードは存

在しません。

3.8 ヘッダファイルとサービス関数

ヘッダファイルは dev_siic.h です。

簡易I2Cドライバを登録するためのサービス関数の仕様は以下の通りです。

ER ercd = siicDrvEntry(void);

3.9 簡易 I2C ドライバが使用する資源

3.9.1 使用する資源の概要

簡易I2Cドライバは処理を実施するに当たり、デバイス名毎に1つのタスク、1つのイベントフラグ、3つの割込みを利用します。サービス関数のAPIを呼び出すと生成または定義されます。

使用する資源	名称	優先度
タスク	siic_tsk	タスクの優先度は SIIC_CFG_TASK_PRIORITY
割込みハンドラ	sci*_rxi*_hdr	割込みハンドラの割込み優先度は SIIC_CFG_INT_PRIORITY
	sci*_txi*_hdr	割込みハンドラの割込み優先度は SIIC_CFG_INT_PRIORITY
	sci*_tei*_hdr	割込みハンドラの割込み優先度は SIIC_CFG_INT_PRIORITY

注:SIIC_CFG_TASK_PRIORITY と SIIC_CFG_INT_PRIORITY は次項を参照

3.9.2 タスク (siic_tsk)

I2Cの通信処理やユーザアプリケーションからのシステムコールの受付けを行います。

項目	値				
拡張情報	0				
タスク属性	TA_HLNG TA_DSNAME TA_USERBUF				
タスク起動アドレス	siic_tsk				
タスク起動時優先度	SIIC_CFG_TASK_PRIORITY				
スタックサイズ	300				
DSオブジェクト名称	"siic*_t" (*はデバイス名の最後の文字)				

備考:

TA_DSNAME、TA_USERBUFのタスク属性とDSオブジェクト名称はカーネルのコンフィグレーションによって未サポートとなる場合があります。

3.9.3 イベントフラグ

I20の通信処理やユーザアプリケーションからのシステムコールの受付け状況の管理を行います。

項目	値
----	---

^{*} の部分にはRIICのチャネル番号が入る(0~3)。

拡張情報	未使用
タスク属性	TA_PRI TA_WMUL TA_DSNAME
DSオブジェクト名称	"siic*_f" (*はデバイス名の最後の文字)

備考:

TA_DSNAMEのイベントフラグ属性とDSオブジェクト名称はカーネルのコンフィグレーションによって 未サポートとなる場合があります。

3.9.4 割込みハンドラ (sci*_rxi*_hdr、sci*_txi*_hdr、sci*_tei*_hdr) SCIの割込みハンドラです。割込みの発生によりイベントフラグへのイベントの設定を行います。

項目	コア					
(受信データフル)	٦,	siica	siicb	siicc		
割込み番号	R5F563N (RX63N)	214	217	220		
	R5F5231 (RX231)	214	218	_		
	R5F523W (RX23W)	_	218	_		
	R5F565N (RX65N)	58	60	62		
	R5F5660 (RX660)	58	60	62		
	R5F566N (RX66N)	58	60	62		
	R5F572N (RX72N)	58	60	62		
割込み優先度	SIIC_CFG_INT_PRIORITY					
割込みハンドラ起動アドレス	sci*_rxi*_hdr(*はSCIのチャネル番号)					

77		値						
コア	siicd	siice	siicf	siicg	siich			
R5F563N (RX63N)	223	226	229	232	235			
R5F5231 (RX231)	_	-	222	226	_			
R5F523W (RX23W)	_	-	222	_	_			
R5F565N (RX65N)	80	82	84	86	98			
R5F5660 (RX660)	80	82	84	86	98			
R5F566N (RX66N)	80	82	84	86	98			
R5F572N (RX72N)	80	82	84	86	98			
SIIC_CFG_INT_PRIORITY								
sci*_rxi*_hdr (*は	SCIのチャネ	ル番号)						

77	値					
	siici	siicj	siick	siicl	siicm	

R5F563N (RX63N)	238	241	244	247	250		
R5F5231 (RX231)	230	234	_	_	238		
R5F523W (RX23W)	230	_	_	_	238		
R5F565N (RX65N)	100	102	104	114	116		
R5F5660 (RX660)	100	102	104	114	116		
R5F566N (RX66N)	100	102	104	114	116		
R5F572N (RX72N)	100	102	104	114	116		
SIIC_CFG_INT_PRIORITY							
sci*_rxi*_hdr (*はSCIのチャネル番号)							

項目	77					
(送信データエンプティ)	コア	siica	siicb	siicc		
割込み番号	R5F563N (RX63N)	215	218	221		
	R5F5231 (RX231)	215	219	_		
	R5F523W (RX23W)	_	219	_		
	R5F565N (RX65N)	59	61	63		
	R5F5660 (RX660)	59	61	63		
	R5F566N (RX66N)	59	61	63		
	R5F572N (RX72N)	59	61	63		
割込み優先度	SIIC_CFG_INT_PRIORITY					
割込みハンドラ起動アドレス	sci*_txi*_hdr(*はSCIのチャネル番号)					

77		値						
コア	siicd	siice	siicf	siicg	siich			
R5F563N (RX63N)	224	227	230	233	236			
R5F5231 (RX231)	_	_	223	227	_			
R5F523W (RX23W)	_	_	223	_	_			
R5F565N (RX65N)	81	83	85	87	99			
R5F5660 (RX660)	81	83	85	87	99			
R5F566N (RX66N)	81	83	85	87	99			
R5F572N (RX72N)	81	83	85	87	99			
SIIC_CFG_INT_PRIORITY								
sci*_txi*_hdr (*/d	sci*_txi*_hdr (*はSCIのチャネル番号)							

77	值				
コア	siici	siicj	siick	siicl	siicm
R5F563N (RX63N)	239	242	245	248	251

R5F5231 (RX231)	231	235	_	_	239			
R5F523W (RX23W)	231	_	_	_	239			
R5F565N (RX65N)	101	103	105	115	117			
R5F5660 (RX660)	101	103	105	115	117			
R5F566N (RX66N)	101	103	105	115	117			
R5F572N (RX72N)	101	103	105	115	117			
SIIC_CFG_INT_PRIORITY								
sci*_txi*_hdr (*は	sci*_txi*_hdr (*はSCIのチャネル番号)							

項目	コア	a::aa	a i i ala	siicc		
(送信終了)		siica	siicb	STICC		
割込み番号、	R5F563N (RX63N)	216	219	222		
グループ割込み番号	R5F5231 (RX231)	216	220	_		
	R5F523W (RX23W)	_	220	_		
	R5F565N (RX65N)	110, 0	110, 2	110、4		
	R5F5660 (RX660)	110, 0	110、2	110、4		
	R5F566N (RX66N)	110, 0	110、2	110、4		
	R5F572N (RX72N)	110、0	110、2	110、4		
割込み優先度	SIIC_CFG_INT_PRIORITY					
割込みハンドラ起動アドレス	sci*_tei*_hdr(*はSCIのチャネル番号)					

77		値						
コア	siicd	siice	siicf	siicg	siich			
R5F563N (RX63N)	225	228	231	234	237			
R5F5231 (RX231)	I	_	224	228	-			
R5F523W (RX23W)	_	_	224	-	_			
R5F565N (RX65N)	110, 6	110、8	110、10	110、12	110、14			
R5F5660 (RX660)	110, 6	110、8	110、10	110、12	110、14			
R5F566N (RX66N)	110, 6	110、8	110、10	110、12	112, 22			
R5F572N (RX72N)	110, 6	110、8	110、10	110、12	112, 22			
SIIC_CFG_INT_PRIORITY								
sci*_tei*_hdr (*は	sci*_tei*_hdr (*はSCIのチャネル番号)							

7.7	値					
コア	siici	siicj	siick	siicl	siicm	
R5F563N (RX63N)	240	243	246	249	252	
R5F5231 (RX231)	232	236	_	_	240	

R5F523W (RX23W)	232	_	_	_	240		
R5F565N (RX65N)	111、24	111、26	112, 8	112、12	110、16		
R5F5660 (RX660)	111、24	111、26	112, 8	112、12	110、16		
R5F566N (RX66N)	112, 0	112、4	112、8	112、12	110、16		
R5F572N (RX72N)	112, 0	112, 4	112、8	112、12	110、16		
SIIC_CFG_INT_PRIORITY							
sci*_tei*_hdr (*/	sci*_tei*_hdr(*はSCIのチャネル番号)						

3.9.5 グループ割込み (GroupBLOHandler、GroupBL1Handler、GroupALOHandler)

SCIの送信完了 (TEI*) 割込みがグループ割込みの場合 (RX65NやRX72N等の場合)、割込み番号 (ベクタ番号) 110、111または112の割込みハンドラを定義することになります。ただし、システムで割込み番号110、111または112のグループ割込みに分類された割込みを利用する場合、SCIの割込みと共存する必要があります。

この割込みに対してはデバイスドライバ共通のグループ割込みハンドラ(GroupBLOHandler(ベクタ番号110)、GroupBL1Handler(ベクタ番号111)、GroupALOHandler(ベクタ番号112))を利用しています。ソースファイルはgroupblo.c、groupbl1.cまたはgroupalo.cです。グループ割込みハンドラでは関数ポインタ経由で割込み要求に対応した割込みハンドラを呼び出します。以下にGroupBLOHandlerグループ割込みハンドラのソースコードを示しますが、GroupBL1HandlerやGroupALOHandlerのグループ割込みハンドラも概要は同じです。

GroupBLOHandlerグループ割込みハンドラ

GroupBLOHandlerグループ割込みハンドラの中でGRPBLOレジスタの各ステータスフラグをチェックし、 各割込みハンドラを呼び出します。

- 3.10 簡易 I2C ドライバのコンフィグレーション
- 3. 10. 1 簡易 I2C ドライバのコンフィグレーション・ファイル

簡易I2Cドライバのコンフィグレーション・ファイルは、mtkernel_3\device\siic\sysdepend\pma ターゲット\frac{4}{3} + まiic_config.h です。

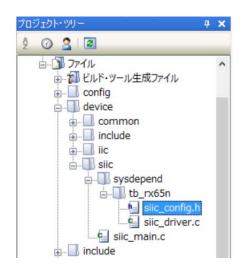


図3.1 簡易I2Cドライバのコンフィグレーション・ファイル

3.10.2 タスクの優先度と割込みハンドラの割込み優先度

SIIC_CFG_TASK_PRIORITY

I2Cの通信処理を実行するタスク(siic_tsk)のタスク優先度です。

システムの都合に応じて、1 ~ CFN_MAX_TSKPRI (タスク優先度の最大値) の範囲で変更できます。 最低でもI2Cを利用するタスクの優先度よりも高く設定することを推奨します。デフォルトは 4 に設定 されています。

SIIC_CFG_INT_PRIORITY

内蔵周辺機能のシリアルコミュニケーションインタフェース(SCI)の割込み優先度です。 システムの都合に応じて、1 ~ MAX_INT_PRI(最高外部割込み優先度)の範囲で変更できます。 TIM_INT_PRI(システムタイマの割込み優先度)よりも低く設定することを推奨します。デフォルトでは 9 に設定されています。

なお、グループ割込みを利用する場合、割込み番号が同一である他の割込みハンドラと同一の割込み優先度を指定する必要があります。もし、異なる割込み優先度を指定している場合、siicDrvEntryのサービス関数の戻り値がエラーとなり、簡易I2Cデバイスドライバの登録が失敗することがあります。

3.10.3 SCI チャネル関連

● USE_SIIC*

内蔵SCIの当該チャネルの使用/未使用を設定します(定義=使用、未定義=未使用)。

使用する場合は目的のマクロ名を定義してください。定義すると3.9節で紹介した資源が生成、また は定義されます。未使用の場合は目的のマクロ名をコメントアウトしてください。

- USE_SSCL_P** (USE_SIIC*が未定義の場合は選択不要です)
- USE SSDA P** (USE SIIC*が未定義の場合は選択不要です)

SSCL端子やSSDA端子が複数利用できる場合の選択です。使用する端子のマクロ名を定義し、使用しない端子のマクロ名はコメントアウトしてください。なお、特定のチャネルに関しては選択ができない場合(固定の場合)もあります。また、全てをコメントアウトしたり、複数のマクロ名を定義すると正しい動作は得られないので注意してください。

SIIC*_FSCL (USE_IIC*が未定義の場合は設定不要です)SCLクロックの周波数を指定します。設定値の単位はHzです。

上記の設定値は接続するI2Cデバイスのデータシート等に記載されています。次頁にBH1750FVIの光センサとPAJ7620U2のジェスチャーセンサの例を示します。

BH1750FVIの光センサ

Parameter	Symbol		Limits		Units	Conditions
rar allieter	Symbol	Min.	Тур.	Max.	UIIILS	Conditions
I2C SCL Clock Frequency	fSCL	_	_	400	kHz	

PAJ7620U2のジェスチャーセンサ

Parameter	Symbol	STANDARD MODE		FAST MODE		Unit
		Min.	Max.	Min.	Max.	UIII L
SCL clock frequency.	fscl	10	100	10	400	kHz

```
/* Use SCIO */
               USE SIICO
#define
               USE_SSCLO_P21
USE_SSCLO_P33
                                                              SCIO
                                                                   SSCLO is P21
#define
                                                      /* Use
                                                                   SSCLO is P33 */
                                                      /* Use SCIO
 /#define
                                                      /* Use SCIO SSDAO is P20 */
               USE_SSDA0_P20
#define
               USE SSDAO P32
                                                      /* Use SCIO SSDAO is P32 */
 /#define
               SIICO_FSCL
                                       400000
                                                      /* SIICO SCL Frequency(Hz) */
#define
```

3.11 スタックサイズ

3.11.1 スタック見積もりツール

本実装においてもスタック見積もりツールを使用することが可能です。スタック見積もりツールの起動方法やリアルタイムOSオプションの設定等はターゲット毎の構築仕様書の第5章を参照ください。

以降はスタック見積もりツールを使用することを前提に各スタックサイズを紹介します。以下にスタック見積もりツールの表示例を示します。

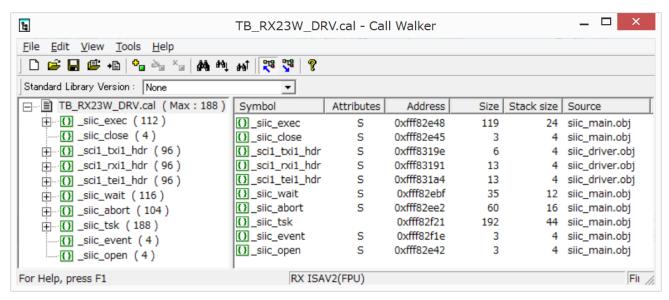


図3.2 簡易I2Cデバイスドライバのスタック見積もり結果

3. 11. 2 siic_tsk のスタックサイズ

siic_tskタスクが独自に使用するスタックサイズは188バイトです。コンパイラのバージョン等が変化しても、それほど大きな違いはないはずです。このサイズにタスクコンテキストのサイズを加えても、現状のサンプルで確保されている300バイトは超えないと考えて構いません。

ただし、カーネル管理外割込みを複数レベル使用すると300バイトを超える可能性があります。もし、カーネル管理外割込みを複数レベル使用する場合はターゲット毎の構築仕様書の第5章の内容に従ってスタックサイズを算出し、mtkernel_3¥device¥iic¥sysdepend¥ターゲット¥siic_driver.cで生成・確保されているスタックサイズを変更してください。

3.11.3 割込みハンドラのスタックサイズ

図3.2の例では、sci1_rxi1_hdr、sci1_txi1_hdr、sci1_tei1_hdrの3つが割込みハンドラです(SCI チャネル1の3つの割込み)。図3.2の例では全て96バイトですが、異なる場合は、最大のサイズが簡易 I2Cデバイスドライバのコンフィグレーションで指定した SIIC_CFG_INT_PRIORITY 割込み優先度で実行 される割込みハンドラのスタックサイズとなります。この数値を使って例外スタックのサイズを算出してください。詳しくはターゲット毎の構築仕様書の第5章を参照してください。

3.11.4 グループ割込み

RX65NやRX72N等のように送信完了の割込みハンドラ (sci*_tei*_hdr) がグループ割込みハンドラ経由で実行される場合、スタック見積もりツールの表示結果は図3.3のようになります。送信完了の割込みハンドラとグループ割込みハンドラの対応は3.9.4項や3.9.5項を参照ください。

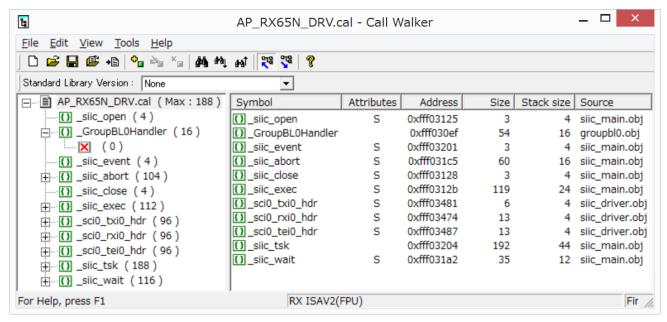


図3.3 グループ割込みハンドラを使用する場合のスタック見積もり結果

上記の場合 (RX65N)、sci0_tei0_hdr割込みハンドラはGroupBL1Handlerグループ割込みハンドラから関数ポインタ経由で実行されます。結果、割込みハンドラのみをドラッグ&ドロップで未解決シンボルを修正すると図3.4のようになります。

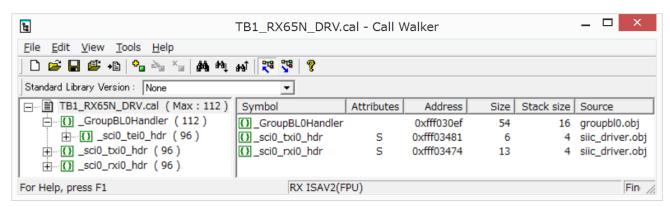


図3.4 ドラッグ&ドロップで未解決シンボルを修正した結果

結果、GroupBLOHandlerグループ割込みハンドラを利用する場合、sciO_teiO_hdr割込みハンドラはGroupBLOHandlerグループ割込みハンドラが使用するサイズを加算したサイズで算出することになります。

図3.3の例であれば、SIIC_CFG_INT_PRIORITY 割込み優先度で実行される割込みハンドラのスタックサイズは112バイトで計算することなります。

3.11.5 処理関数のスタックサイズ

μT-Kernel/SMから呼び出されるデバイスドライバの処理関数 (siic_open、siic_close、siic_exec、siic_wait、siic_abort、siic_event) の中でシステムコールの加算条件を超えるものはあ

りません。このため現状のスタック解析結果では処理関数が使用するサイズは表示されないようにして あります。詳しくはターゲット毎の構築仕様書の第5章を参照してください。

3.12 サンプルプログラム

第2章のI2Cドライバのサンプルプログラムと同じです。デバイス名を簡易I2Cドライバのドライブ名に変更してご利用ください。

なお、I2Cドライバと簡易I2Cドライバで共通の端子を使用することはできません。不要であれば、I2Cドライバのサービス関数(iicDrvEntry関数)の呼び出しは削除やコメントアウトしても構いません。

4. 問い合わせ先

本実装に関する問い合わせや他のRXファミリへのポーティングに関する相談は以下のメールアドレス 宛にお願い致します。

yuji_katori@yahoo.co.jp

トロンフォーラム学術・教育WGメンバ 鹿取 祐二(かとり ゆうじ)

なお、上記のメールアドレスは余儀なく変更される場合がありますが、その際はご了承ください。

以上